

令和2年6月25日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 令和2年6月25日(木曜日)

午後3時30分から午後4時40分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席者

教育長 金澤 俊道 委員 鷲尾 達雄 委員 青柳 由美子
委員 大久保 真紀 委員 荒木 正

4 職務のため出席した者

教育部長	小池 隆宏	子ども未来部長	水島 幸枝
教育総務課長	水島 正幸	教育施設課長	遠藤 雄一
学務課長	笠井 晃	学校教育課長	中山 玄
学校教育課主幹兼管理指導主事	神林 俊之	学校教育課主幹兼管理指導主事	丸山 巧
学校教育課主幹兼管理指導主事	涌井 良平	中央図書館長	佐藤 陽子
科学博物館長	小熊 博史	子ども・子育て課長	田中 剛
保育課長	長谷川雅泰		

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	植村 裕	教育総務課庶務係長	内藤 貴幸
教育総務課庶務係	今井 香		

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 43 号	補正予算の要求について
3	第 44 号	附属機関委員の委嘱について

7 会議の経過

(金澤教育長) これより教育委員会 6 月定例会を開会する。

◇日程第 1 会議録署名委員について

(金澤教育長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第 19 条第 2 項の規定により、青柳委員、大久保委員を指名する。

◇日程第 2 議案第 43 号補正予算の要求について

(金澤教育長) 日程第 2 議案第 43 号 補正予算の要求について を議題とする。
事務局からの説明を求める。

(水島教育総務課長) 教育総務課の補正予算は、歳入補正額が814万 8 千円、歳出補正額が1,405万 6 千円である。内容としては、文部科学省の二次補正を活用し、タブレットの利活用に必要な備品の購入及び調理員・児童・生徒の熱中症対策のために、冷房設備が整っていない学校にスポットクーラーを購入するものである。具体的には、冷房設備が整っていない小学校25校の調理室にスポットクーラー合計90台を設置する経費として 673万 2 千円。これに対する補助金が補助率 2 分の 1 で、336万 6 千円となる。また、歳出のうち、遠隔学習等に対応するためのカメラ・マイクセットを各小学校計55校にセット購入する金額が176万円。それに対する歳入は補助率 2 分の 1 で、88万円となる。歳出のうち239万 4 千円は、冷房設備が整っていない中学校 8 校にスポットクーラーを整備するもので、これに対する歳入が119万 6 千円となる。また、カメラ・マイクセットを各中

学校に設置する経費として86万4千円、これに対する歳入が43万2千円である。最後に、遠隔学習通信装置等整備経費として特別支援学校にカメラ・マイクセットを購入するものを6万4千円、補助率2分の1で計上、また、視覚や聴覚・身体等に障害のある児童生徒が端末を使用するにあたって必要となる入出力支援装置を購入する経費として224万2千円を補助率10分の10として計上した。

(遠藤教育施設課長) 教育施設課は、今回の新型コロナウイルス感染予防対策・防止策としての国の二次補正を受けて、保育園34園、幼稚園1園、小学校30校、総合支援学校1校の計66施設において、自動水洗による温水設備を整備する。また、小学校8校、中学校5校、共同調理場1施設の計14施設において、現在冷房がついていない給食調理室に冷房を整備するものである。歳出の総補正額としては、5億9,644万8千円である。歳入は、文部科学省からの冷房設備の補助金の対象となる学校4校に対しての国庫補助金額が合計で493万4千円である。歳出に対し、差額分が約5億9,100万円になるが、その分については地方創生交付金の歳入が見込まれる。

(笠井学務課長) 学務課は歳入補正額が3,821万9千円、歳出補正額が1億816万8千円である。まず、歳出の方から説明する。はじめに、学校給食関連事業者支援金として2,824万円、これは、4月から5月にかけての学校給食の休止に伴う給食食材納入業者の売上減少額に対して支援を行うものである。続いて、感染症対策支援事業として校内消毒清掃業務委託料を348万2千円計上した。これは、学校内の共有スペースの清掃作業や、3密対策により児童が実施できない清掃などに対し、シルバー人材センターの人員を活用し、委託料として支出するものであり、教職員の負担軽減を図る目的もある。続いて、他の歳出6件については、主に学校現場の保健衛生用品の整備に活用するものである。内容については、それぞれ小・中学校、総合支援学校にて消毒液や非接触型体温計などを整備するものであり、特別支援学校においては、各学級に一つクリアボードなどを整備する予定である。歳入については、今ほど説明した保健衛生用品等の合計額が7,644万6千円となり、この2分の1をそれぞれ小・中・総合支援学校に振り分けて、補助金を受け入れるものである。

(中山学校教育課長) 学校教育課の歳出について説明する。今ほど学務課から説明があったが、教職員の負担軽減という観点から、校内の共有スペースの清掃作業や3密対策により児童生徒が清掃できない部分について、市が直接雇用する形で校内消毒清掃員を

配置するための経費として5,450万2千円を計上しているものである。概ね7月中は授業を継続する小・中学校が多い状況であることから、補正予算が認められた場合には、可能な限り早く雇用の事務を進め、7月下旬を目途に各学校現場に清掃員を配置し、教職員の負担軽減を図りたいと考えている。また、歳出2,402万円については、2020メモリアル大会等開催関係経費である。これは、新型コロナウイルスの影響で、中越大会及びそれ以降に続く全国大会まで、中学校3年生のスポーツ競技大会やコンクール等が中止になっていることから、3年生の部活動の区切りとなる場を設け、活動の成果等を発表する独自の大会等を開催するための経費である。開催に伴う移動のための交通費や参加記念品代を教育委員会が支援し、成果発表の場として開催するための経費を計上したものとなる。なお、時期的には7月から8月上旬にかけての土日祝日等を使い、会場を分散する形で実施する予定としている。最後に、歳入の雇用保険料については、校内の消毒清掃員を雇用するための被保険者負担分を受け入れるものである。

(佐藤中央図書館長) 中央図書館の歳出の補正額は143万1千円である。指定管理者が運営している地域図書館7館において、指定管理者が行う感染防止対策にかかる経費分について、指定管理者委託料を増額するものである。

(小熊科学博物館長) 科学博物館は、歳入額が42万1千円、歳出額が84万3千円となっている。これは、文化庁の文化施設の感染症防止対策事業補助金を活用し、科学博物館と寺泊水族博物館の感染症防止対策を行うものである。非接触型体温計や消毒液等を購入し、安心安全な施設とする。また、科学博物館については、密集することが予想される展示箇所に抗ウイルス型空気清浄機を設置する。

(田中子ども・子育て課長) まず、歳出の9,727万5千円について説明する。はじめに、民生費・児童福祉費・児童福祉総務費の放課後児童健全育成事業費325万円については、適切な感染予防対策を行った上で事業継続が求められる児童クラブにおいて必要な消毒液と非接触型の体温計を配備するための経費を計上したものである。児童発達支援事業費105万円については、放課後等デイサービスなどの事業所18か所への消毒液やマスク等の用品を配布する経費を計上している。民生費・児童福祉費・児童福祉施設費については、まず、双葉寮施設整備事業費として59万9千円を計上した。これは、双葉寮の小・中・高校生に対し、臨時休校等の期間においても切れ目ない学習機会を提供するとともに、特に高校生には退寮後の大学への進学や就職といった自立に向けた支援も必要であ

るため、双葉寮に通信環境を新たに整備する経費である。続いて、放課後児童クラブ等施設整備事業費としてエアコン整備費510万円及び温水設備事業8,450万円を計上したが、これは、児童クラブの夏場における密集を防止するとともに、冬場でもしっかりと手洗いを行えるようにするために必要な設備を整備するためのものである。児童館管理運営費の36万円及び130万円は、先ほど説明したエアコンと温水設備に係る電気料をそれぞれ計上したものである。最後に衛生費を説明する。母子保健衛生費66万9千円及び母子保健推進事業費44万7千円については、乳幼児健診や妊産婦訪問での新型コロナウイルス対策として、医師や看護師、助産師等の従事者に、フェイスシールドやマスク等を配備するための経費を計上したものである。歳入の325万円は、児童クラブにおける消毒液等の配備に伴う経費を県が10分の10で負担することから、その補助金を見込んで計上したものである。

(長谷川保育課長) 歳入の説明は割愛し、歳出補正額1億5,589万2千円について説明する。補正の内容としては、大きく三つある。まず一つ目として、公立認可保育所及び私立認可保育所における感染症拡大防止対策事業である。公立については感染症拡大防止に必要な消耗品やアクリル等の備品の購入経費及び施設を継続するための業務委託経費を計上した。私立についても同様で、認可保育所、認可外保育所、又は事業の内容によっては延長保育や子育て支援センターなど、それぞれの事業に着目して、1事業当たり50万円を上限として国の交付金が入るものである。事業として200事業があるため、1事業につき50万円を見込み、最大の1億円を計上した。また、二つ目は、公立認可保育所と幼稚園の一般経費として、保護者連絡システムを新たに導入したいと考えている。これは、今回のコロナ対策等も踏まえて、休園や登園自粛等についての連絡を迅速確実にを行うために、メール配信をしっかりと行いたいということ、さらには、保育園間における会議や、市が実施する研修についても、Web上で開催することを可能にするため、非接触型の環境整備に要する経費を計上したものである。最後に、公立認可保育所の運営費として電気温水機設置に伴う光熱水費の増額分について説明する。幼稚園についても同様に計上してあるが、先ほど教育施設課から説明があったとおり、保育所等に電気温水器を設置することに伴う光熱費を計上したものである。

(金澤教育長) 総額10億円を超える大きな補正となるが、歳入の約2億円は文部科学省や厚生労働省等の補助金をフルに活用し、その差額の8億円に関しては、国が2兆円を

設定した特例交付金を充てるということで、一般財源からの持ち出しはせずに進めていく。

(金澤教育長) 質疑・意見はあるか。

(鷲尾委員) この度の緊急対策における交付金を活用する中で、教育委員会が必要とするものはすべて計上することができているのか。

(金澤教育長) 今回は、市長部局も含め、全庁的に新型コロナウイルスの対策として必要なものを全部上げて、市長部局の財政課及び政策企画課が取りまとめを行った。教育委員会としては細かく様々なことを考えて予算要求をし、すべて要求が認められた結果となった。

(荒木委員) 国や県からの交付金を活用し、緊急的に予算を認めてもらったことはいいことだが、私が一番心配するのは、予算計上が認められない時が来るということである。教育現場で一番怖いのは常にそのことであり、認めてもらった時はいいが、予算がなくなる又は予算が削られた後のしわ寄せを現場が非常に受けることとなる。来年以降も、今回導入する機器等のランニングコストは継続的に必要になってくる。そのことについて、国等はそういった支援を継続するような見通しを持って動いているのか。例えば、学校にとってトイレの清掃等は非常に重要であり、今回は人を雇用して清掃をしてくれるということで非常にありがたく、安心して学校運営ができる。しかし、来年度にこの雇用に対する予算がなくなった場合、現場の職員の負担になるのではないかといった心配が常にある。そういう観点から、来年度に関する見通しはどうか。

(金澤教育長) 各課で、特に人員等について今後の見通しを持っている課は発言を願う。

(小池教育部長) 清掃員や、消毒等に対応する作業員の確保は、恒常的に何年も確保しようということではなく、雇用の面も考えての対応であり、現時点では今年度限りと考えている。来年度以降については今後考えていく必要がある。

(荒木委員) 人員には予算が常につきまとう。今年度限りならば、そのことを現場にもよく周知した上で配置をすることで現場の混乱は少なくなる。配置された清掃員の作業の仕方を確認したり、引き継ぎを受けたりすることが必要となってくるため、きちんと周知を行ってほしい。

(金澤教育長) 今後の感染状況によって、例えば来年度の予算要求時期に収束の見込みがなかった場合等は、市の予算として対応する必要があるかどうかといった判断をする

必要性が出てくる。この状況であれば消毒作業は外部に委託するしかないとか、トイレ清掃を子供たちが行うことは無理な状況だといった判断になれば、そこでまた考えていく必要があるが、今回の交付金については今年度単発のものであるため、荒木委員からもあったように、現場にはそのことをきちんと伝えておく必要がある。

(金澤教育長) 今後のランニングコストの面は若干あるかもしれないが、来年度に予算がなくなると、大幅に変わってしまうような事業等は他にないということでもいいか。

(金澤教育長) 他に質疑・意見はあるか。

(大久保委員) 今回の補正予算に計上されたものは実施する必要性があるものばかりだと思うが、この中で、他の自治体と比べて長岡市だから特別に実施するような事業はあるか。

(金澤教育長) 学校教育課のスポーツ大会などの関係経費への助成はそれにあたる。他市で実施している例はあるが、交通費や参加賞への助成をすることは少ないのではないか。他市の状況はわからないが、温水設備も、もしかしたらそこまでやらないところもあるかもしれない。手洗いの励行が必要という中で、寒い冬に冷たい水に長時間手をつけることに対する配慮ということであるが、全市が実施しているというものではないと思う。

(青柳委員) 温水設備の設置については、コロナの前から要望があった。

(金澤教育長) 言い方は適切ではないかもしれないが、ピンチをチャンスと捉え、これを機に大きく前進する、いいチャンスでもあると考えている。児童一人一台のタブレット配備をはじめとして、調理室に冷房設備を配備すること等、今までなかなかできなかったことが可能になった。

(金澤教育長) 他に質疑・意見はあるか。

(青柳委員) 今回の補正予算の中で、随所に「非接触型環境整備」という用語がある。体温計はわかるが、その他、例えば保育課のタブレットを活用するといったものは具体的にどのようなものなのか。

(長谷川保育課長) 保育所を対象とした研修をこれまでは様々な機会をとらえて集合型研修として実施していたが、現在では密になるという観点から開催が難しい現状がある。そのため、非接触型の環境整備としてタブレットを導入することにより、各園に保育士がいながらにして、講師の説明や講習を聞く機会を設けたいということである。

(金澤教育長) 密接を避けるという観点から、接触をなるべくしなくて済むような形を考えると、オンラインが一つの手法として出てくるということである。非接触について、他に質疑・意見はあるか。

(鷲尾委員) 話題が少しずれるが、W i F i の環境整備はの進捗状況はどうか。個人的にも Z O O M や T e a m s を使ったウェブでの会議等の機会がすごく増えているが、音声途絶えることが多々ある。今、学校はどのような状況にあるものなのか聞きたい。

(遠藤教育施設課長) 学校のW i F i 環境の整備については、3月の補正予算により現在順次設計が終わり、早いところでは5月下旬から入札を行い、徐々に学校に工事が入るところである。実際に工事が始まるのは7月以降だが、今年度中の整備を予定している。全80校での整備で、それを段階的に設計をして入札を行うという状況であり、8月位までには入札が終わる見込みである。概ね設計は終わっており、現在は入札について契約検査課が対応をしているが、進捗状況としてはまだ3分の1に到達していない。あと2か月程度で、残りの部分の入札を行い、順次工事に入っていく状況である。

(鷲尾委員) 例えば秋に第二波が来るなどの感染問題が起こったとして、秋冬の時期に長岡市内の小・中学校がリモートでオンライン授業を全面的にやろうということになった場合に、W i F i 環境整備は間に合うのか。

(遠藤教育施設課長) 校内の整備としては、夏から年度内にかけての工事になるため、一部間に合わないところが出てくる。また、学校と家庭をオンラインで繋ぐこととなるが、家庭側の環境の方は教育施設課では把握していない状況である。

(金澤教育長) 今回の臨時休校の際は、学校の有線LANのネットワークにより学校から発信をして、受け手は各家庭でW i F i 等で受けてもらう形で実施した。そのため、現時点でもオンラインで授業することは可能である。現在の工事は、校内のW i F i の線をさらに太くし、校内の無線化を進めているものである。

(金澤教育長) 他に質疑・意見はないか。

(金澤教育長) これより、採決に移る。本件は原案通り決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり決定した。

◇日程第3 議案第44号附属機関委員の委嘱について

(金澤教育長) 日程第3 議案第44号 附属機関委員の委嘱について を議題とする。
事務局の説明を求める。

(水島教育総務課長) 議案第44号 附属機関委員の委嘱について説明する。まず、長岡市図書館協議会委員の任期が令和2年6月30日で満了するため、新しい委員を委嘱するものである。委嘱期間は令和2年7月1日から令和4年6月30日までの2年間で、委員は学識経験者、学校教育関係者、関係団体の代表、地域の代表、公募での選出で、再任6人、新規4人の計10人である。次に、長岡市予防接種健康被害調査委員について説明する。委員のうち1人は長岡市医師会会長に委嘱をしていたが、6月1日付の人事異動により、医師会長が変わったため、新たな医師会長に委嘱をするものである。任期は医師会会長の職を離れるまでとなる。最後に、長岡市子ども・子育て会議委員の任期が令和2年6月30日で満了するため、新しい委員を委嘱するものである。委嘱期間は令和2年7月1日から令和4年6月30日までの2年間で、委員については、資料に記載の関係団体の代表及び公募からの選出となる。再任11人、新規9人の計20人である。

(金澤教育長) 質疑・意見はあるか。

(鷲尾委員) 子ども・子育て会議は、法令上設置することが義務づけられている会議なのか、それとも長岡市独自の取り組みなのか。

(田中子ども・子育て課長) 子ども・子育て支援法により、各市町村に設置が義務づけられているもので、長岡市においても平成26年より条例を制定して設置している。

(金澤教育長) 他に質疑・意見はないか。

(金澤教育長) これより、採決に移る。本件は原案通り決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり決定した。

(金澤教育長) 以上をもって本日の議案の審議については終了する。

(金澤教育長) 次に、協議報告事項に移る。長岡市令和2年度子育て世帯への臨時特別給付金支援事業実施要綱の制定について、事務局の説明を求める。

(田中子ども・子育て課長) 子育て世帯への臨時特別給付金支援事業は、先月の教育委

員会の臨時会で補正予算で計上したものである。国の第一次補正予算に係るもので、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている子育て世帯への支援として、児童手当を受給する世帯に臨時特別の給付金を1万円上乗せして支給するものである。要綱の内容は、実際の支給事務にあたって必要となる事務手続きを定めたものになっている。主なものとしては、第3条に対象児童1人につき1万円を支給すること、また、第4条に、今回の給付は申請手上げ方式ではなく、あらかじめ児童手当の支給対象になっている方に上乗せして支給することとし、対象者にお知らせを通知することをもって申込受付とし、市と対象者の契約が成立するということが書いてある。その他については公務員への支給における対応について記載したものである。既に、6月15日に公務員以外の一般世帯に対し支給を行い、実績としては1万8,060世帯、児童数にして2万9,835人に対し、2億9,835万円を支給した。公務員については、別途居住市町村への申請が必要となっており、今現在申請書を受付けている。早ければ来月15日に1回目を支払う予定である。

(金澤教育長) 質疑・意見はないか。

(金澤教育長) 質疑・意見なしと認める。

(金澤教育長) 次に、催し案内等について補足説明のある者は挙手願う。

(中山学校教育課長) 天体観察会について説明する。7月14日に市教育センター、8月4日に出雲崎町中央公民館で、小中学生を対象に天体観察会を行うものである。長岡会場についてはかなり好調で、6月22日時点で50名近くの参加申し込みがある。新型コロナウイルス禍の中だが、屋外で実施する部分もあり、定員を超えた場合には抽選となっているが、場合によってはもう1回程度追加で設けることができるか等について検討を始めている。

(佐藤中央図書館長) としょかんサマーチャレンジについて説明する。7月から8月、幼児から小学生を対象にクイズ等を行い、図書館に親しんでもらう、毎年恒例の行事である。また、夏休み図書館ボランティアは、中学生以上を対象に、図書の整理や窓口体験を通じて図書館への理解を深めてもらう行事である。どちらも3密対策を実施した上で実施していきたいと考えている。

(小熊科学博物館長) 特別展「ツノ虫×キバ虫」について、チラシをご覧いただきたい。7月10日から9月6日まで、科学博物館企画展示室で行う。巨大なツノやキバ、大きな顎をもつ昆虫としてカブトムシやクワガタムシがよく知られているが、その他にも、ツ

ノゼミやクワガタコガネ等、発達した爪やキバを持つ様々な昆虫が見られる。この企画展は、形態の多様性の魅力や形態進化の謎に迫るといった内容である。また、寺泊水族博物館にて行われる水生生物探察会「タツノオトシゴを見つけよう」という行事は、水族館脇の浅い海に入って、生物の採取や観察会を行うものである。これは寺泊水族博物館が休館していた後、始めて野外で行うイベントということで紹介をさせていただく。感染症対策に留意して実施する中での企画となっている。

(金澤教育長)　ようやく催し物等が開催できるようになってきた感じがする。感染症対策、予防対策を十分にして、ぜひ進めていただきたい。

(金澤教育長)　質疑・意見はあるか。

(大久保委員)　新型コロナウイルスの影響で、毎年、夏休みに実施していたイベントで中止になったものはあるか。

(小熊科学博物館長)　科学博物館では、例えば20組だったものを10組にする等、参加人数を制限するような形で調整を行い、行事そのものをなくすことはしていない。また、学校の出前授業は6月以降は多くの学校から依頼が来ており、科学博物館や馬高縄文館が学校に出向いて授業をしている。ただし、今年度は2クラス一緒に実施するケース等はなく、クラスごとでかつ少人数に分かれての対応の中で体験学習を実施している。こちらで用意する道具等も含め、感染症対策には十分配慮し、学校の先生とも連携しながら実施する。

(佐藤中央図書館長)　図書館は、お話し会や読み聞かせの会を随時開催しているが、現時点ではまだ再開できていない。また、映画会も通常であれば月に2回程度開催しているが、会場である講堂の定員が限られていることや、人気イベントであり行列ができてしまう恐れがあるために再開できていない状況である。

(金澤教育長)　子ども・子育て課の青少年関係では何かあるか。

(田中子ども・子育て課長)　親も育つ子育てセミナー等は、通常であれば早い段階から準備をしているが、実施時期を後半にずらして実施している。また、子育ての駅でも、密にならないような形でイベントを再開するよう準備している。ただ、次代の親の講座については、どうしても小さなお子さんとお母さん方の密接が避けられないため、現場で実際に担当するNPO法人のスタッフやコンシェルジュと意見交換する中で、今年度の実施は残念ながら中止とした。その他、虐待の家庭支援講座等の各種講座も、時期を

ずらして開催するように準備している。

(鷲尾委員) イベントが順次再稼働しているが、3密対策のガイドラインはあるのか。
長岡市独自で決めるのかそれとも各種施設の責任者任せなのか。

(田中子ども・子育て課長) 様々な業種・業界が示すガイドラインがそれぞれに出ているので、例えばスポーツであればスポーツ団体が、それをベースに対策を組み立てている。市の子育ての駅については、月に何回か施設長会議を開いた中で、どういった対策が望ましいのか、現場の声をはじめ様々なものを参考にしながら、独自でルールづくりをする形で進めている。また、児童クラブ等については、国や県からそれに関する通知も出ているので、参考にしながら対応しているのが実態である。

(金澤教育長) 国・県から、6月19日からは屋内施設、定員の半分で1千人以内、8月からは半分以内で5千人といったような大きな見解は出ている。それを参考にして、それぞれの施設の中で考えながら実施することが基本となる。

(青柳委員) 妊産婦訪問や赤ちゃん訪問について、抵抗があるといった声や訪問をお断りする方は特にいないか。

(田中子ども・子育て課長) 数件そういう声があったが、逆に、こういった機会なのでぜひ来て欲しいという声の方が多い現状がある。我々としても、直にお会いして確認することは非常に大事だと考えている。母子保健推進員や助産師からは、手持ちの消毒液が欲しいといった声があったことから、こちらで用意したものを配備する中で、快く訪問活動を受け入れていただいているというのが実態である。

(金澤教育長) その他報告事項はないか。天体観察は、ぜひ希望した子供たちが参加できるようにしてほしい。

(金澤教育長) 以上で本日の定例会を閉会する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員